

《看護ワンテーマ BOOK》

快適! ストーマ生活

日常のお手入れから旅行まで



松浦信子、山田陽子＝編著

定価1890円(本体1800円+税5%)

医学書院 ☎03-3817-5657

急性期病院で退院支援が必要となる代表的なケースは、医療処置が必要な状態で退院し、在宅療養に移行する患者である。医療者にとっては日常的な医療処置であっても、多くの患者にとっては不安や戸惑いが先立ち、「退院しよう、家へ帰ろう」と決心できないのだ。

なかでも、人工肛門・人工膀胱、いわゆるストーマを造設しての退院となると患者にとっては「ストーマってどんなもの? 家で生活できるの?」と在宅療養をイメージすることさえ難しいのが現実だ。

そうした不安から、一時的に医療者に依存的になっている患者が、退院後、自立的な生活に移行できるかどうかは、退

院支援を行なう病棟看護師や退院調整担当看護師、あるいは在宅療養後の支援を担う訪問看護師にとっての腕の見せ所だ。

患者説明の場面で活用してほしい1冊

このたび医学書院から刊行された『快適! ストーマ生活 日常のお手入れから旅行まで』は、そうしたストーマ保有者の退院支援、在宅療養支援にかかわる看護師に手にとってほしい一冊だ。《看護ワンテーマBOOK》シリーズならではの、「わかりやすさ」「あつたかさ」を感じる書籍となっている。

パート1では、不安いっぱいストーマ導入段階での説明に活用できるであろうストーマの基本的な知識が、パート2ではストーマのお手入れ方法が、パート3では退院後の日常生活・旅行や運動、そしてちょっと聞きにくいけどとても大切な性生活のことが、わかりやすい言葉と、かわいくあたたかいイラストや写真で説明されている。

最後のパート4「それは合併症かも?」は、ジェネラリストとしてストーマ保有者に関わる訪問看護師、介護施設に勤める看護師やケアスタッフに読んでほしい内容だ。ストーマケアの必要高齢者は在宅や介護施設にも多くなっているが、

このパートではストーマの合併症での、「これは受診したほうがいい」と判断しなくていけないポイントについて、わかりやすくまとめられている。ストーマに関する医療的知識、とくに「あれ? 何か変だ」と気づくポイントを押さえておくことは、今後、介護職にも求められる傾向にある。本書で学んでおけば、介護スタッフも安心してストーマケアに参加できるようになるだろう。

褥瘡やストーマを専門とするWOCナースとして15年目のキャリアをもつ著者(松浦信子氏)の、「術前から使えるものがつくりたかった」という言葉が印象深く、私に響いた。ストーマ造設を決めるのは多くの場合、患者ががんと向き合っているときだ。がん告知の衝撃のうえに、ストーマ造設という、医療者からの未知の提案を受け入れなくてはならない。そのときに、本書をナースとともに見ながら説明を受けることができると思う。患者さんはきっと「何とかやれそうだな、がんばってみよう」という気持ちになれると思う。

ぜひ、みなさんの職場でもそんなふうを活用していただき、患者さんが安心してストーマ生活を快適に送れるように支援してほしいと思う。